

町田市議会議員・ネット発信NO. 1

吉田つとむ

ユーチューブ動画 860 万回再生を突破



セミナー報告：里山資本主義

超党派地方議員の清溪セミナーに参加しました。冒頭の講演は、：藻谷浩介氏（地域エコノミスト）でした。全国の自治体を歩き回ったとし、最近では、里山資本主義を提唱されています。また、数値分析が得意でもあります。

藻谷氏の見解では、その数値分析により、日本の都市は高齢者ばかりになり将来は無い、過疎地は里山の風景を取り戻すことで再生できると言うものです。ただし、現実には高齢者の就労が増加しており、年金支給もすでに 65 歳からとなっています。そうすると、65 歳までの就労は前提となり、いずれ 70 歳を目指しての年金開始年齢が設定されるのではないのでしょうか。

もとよりその方法で社会の就労問題が解消するわけではありませんが、現実の世の中は自分に合わせた将来をイメージしていると言えましょう。なお、藻谷氏が想定する里山資本主義の考え方は、流行のコンパクトシティの主張とは異なって、過疎の現状を資産とする、資本とする考え方であろうと思います。もちろん、全国の過疎地の中には牧歌的な雰囲気や過疎地ゆえに豊かな生活もあり得ると思いますが、大多数の人たち、国民が許容しうる現実を達成するのは不可能と考えられました。



◎町田市議会は定数 36 名（1 名が任期途中で退職し、現在は 35 名）。大多数はそれぞれの会派に所属します。吉田つとむは、「無所属」という 3 名の会派に所属しています。議員は原則「会派」単位に活動し、一般質問は個人単位で行います。

その「無所属」会派の 3 名は、議案の採決において、自由に賛否を決める場合があります。

セミナー報告：ごみ資源化

講師：エビス紙業 三澤直人社長

三澤社長は異業種から同社に入り、古紙回収業から、環境企業に転換させて現在に至る事業家です。ごみを焼却せず、好気性微生物を使って、資源化する事業を営み、自治体と一体になった固形燃料化のプラント事業を行っており、多数の自治体から注目される企業であり、人物でもあります。



講演の主テーマは、同社が取り組む事業で、「再生不向きな廃プラスチック類や紙くず、繊維くずなどの産業廃棄物を原料に固形燃料「RPF」を製造しており、製紙会社などに石炭代替で供給するというものでした。あわせて、同社の事業はそこにマーケットがあることが前提で、世界最大級の製紙工場がある四国に拠点をおいて、事業が営まれていることでした。この工程を好気性の微生物にやらせるところが特徴で、その微生物はどこにでもいるタイプのものと言うことでした。そのために、好気性の微生物を使った施設＝トンネルが必要になり、装置全体が大型化することも特徴でした。

町田市はごみ処理に微生物を使ったバイオガス化施設を導入して資源化を図っていますが、エビス紙業のシステムはよりシンプルだが、スペースが必要と言うタイプです。

良識ある保守主義・情報公開

吉田つとむ

町田市議会議員（4 期連続トップ当選）

＜編集発行＞

〒194-0011 町田市
成瀬が丘 1-14-12
サンホワイト E103-13
自宅 042-795-7361(fax 兼用)
市議会議員 吉田つとむ
yoshidaben@gmail.com



文化祭に見る、文化学園大の創造力の強さ

大学祭の出来栄えランキングは高評価の 95 点

文化学園大学・文化服装学院（旧：文化女子大学）と言えば、日本を代表するデザイナーを多数輩出した大学で、高田賢三、コシノジュンコ、山本耀司などの名前を誰でもあげられます。最近では、篠原ともえ（タレント）、鈴木蘭子（モデル）、勝田里奈（アイドル）などの人材も輩出しています。

その文化祭を今年も見学しました。学生が学ぶのは、服飾のデザインや製造分野に限らず、その流通・販売、さらにはファッションモデルのコースなどの学部・学科を備えており、日本で最大のファッション産業に従事しようという学生が集う服飾全般の教育機関となっています。文化祭では、それぞれの学部・学科ごとに発表の場が多く、多くの教室に設置され、学生や教授陣が説明役を担っていました。服飾系大学の華とも言えるべきファッションショーは見学申し込みが殺到し、メイン会場には入れず、国際科部門のショーを鑑賞しました。また、学生ブランドの立ち上げも学院が支援しており、気に入った DeJaVu ブランドのキャップを購入しました。



◎水耕栽培メロン 世界一決定戦を開催しよう！

○支持政党なしの方々の代表＝吉田つとむの基本理念は、良識ある保守主義です。

○吉田つとむは、「若者育成」をトップの政策に掲げています。

●吉田つとむは令和 4 年 2 月実施の市議会議員選挙で、4 期連続のトップ当選を果たしています

C+walkT の乗り心地をお台場で試す

まだ、価格が高額（30 万円は越す！）過ぎ！

レンタル（500 円）乗車したのは東京ビックサイトで、目的地はゆりかもめのテレコムセンター駅付近にある、東京科学館の借り入れ返却場所でした。その日はウィークデーでこの辺りを歩く人はほとんど見えず、この写真は自転車に乗ったお台場住民の方に撮影していただきました。一方で、お台場住民の普段の乗り物は自転車が最適なのでしょう。



動いてみると、平坦地のお台場ですが、実際に走行すると歩道と車道の間など随所に思わぬ段差がありました。乗り切れないと言うものではないのですが、やはり、揺れが気になるというものでした。

とは言え、この C+walkT は、平坦な都会では大変便利な乗り物かも知れませんが、町田市のように山坂が多い場所では、電動キック同様に不便な乗り物と言えるでしょう。いわゆる軽快なシルバーカー（電動車椅子）と同じか、同様な乗り物と感じました。

若い世代の育成に全力をささげる
町田市議会議員(4期連続トップ当選)

吉田つとむ



ブログ 個人HP
メールは
左記を読込
して送信



好評インターンシップは、第55期生を募集予定

インターン体験記⑧ 佐々木 瑛

町田茶道会のお茶会に出席して

私はこれまでお茶のお作法について学んでいなかったため、隣の席の方に教えていただきながら和菓子とお茶を楽しませて頂きました。

立礼棚とは、テーブルと椅子を使ってお点前を行う際に用いる棚のことだそうです。今回の立礼棚は 船の先の形をもとにした形になっており、それに合わせて棚の脚の部分には和柄の波模様が施されていました。また、使われていた茶道具も渦をモチーフとしていたり、水しぶきのような模様になっていたりしました。毎回のお茶会で、季節にあったテーマを設定し、それに合わせて茶道具や棚、他にも掛物やお花、和菓子を選ぶこだわりを体感することが出来ました。

そして今回初めて茶道の世界に触れて、日本の伝統的な礼儀作法を見ることが出来ました。また、それと同時にひとつの空間の中で周りの方とお菓子やお茶碗、お茶を一緒に頂く事で生まれる一体感や安らぎを感じ、日本のお茶の文化の美しさや素晴らしさを学ぶことが出来ました。



東京学芸大学2年生 佐々木 瑛(第54期生)

◎吉田つとむのインターンシップは1998年に開始、2024年9月末までに110名が参加しました。
◎ インターン生に政治活動の参加は一切求めず、あくまで社会勉強・見学のメニューです。
◎次回のインターンシップは、2025年春季募集で2024年11月より広報開始しました。

インターン体験記⑨ 酒井 優子

つがる市東京事務所とアンテナショップを訪問

つがる市東京事務所とアンテナショップである「果房 メロンとロマン」を訪問してきました。メロンを使ったメニューをさまざま販売しているカフェであり、つがる市の地場産品をアピールする目的で設置されている施設のアンテナショップでもありました。



東京都立大学2年生 酒井優子(第53期生)

お店のターゲット層は30代女性とのことでしたが、そういった層の移住者を狙っているわけではなく、一番移住者として狙っている層は40代の男性とのことでした。しかし、移住したとしても市で紹介できる仕事は少ないそうです。そのため、フルリモート等で市外に仕事を持っている人が、生活する場所としてつがる市に住むのが現実的とのことでした。お店のターゲット層と移住をしてもらいたい層が異なっているのは改善点ではあるものの、施設自体を変えないとその問題が改善できないため、実質改善は難しいというのが歯がゆいと感じました。

今回カフェを訪問したことで、つがる市の魅力についてさまざま知ることが出来ました。カフェに訪問する人がもっと増えれば、つがる市に移住したいという人が必ず現れる、とそう感じました。

インターンシップで若者育成の貢献
町田市議・完全無所属・良識ある保守主義

吉田つとむ



好評インターンシップは、欠かさずに続いている

インターン体験記⑩西條菜々美

社会人の先輩元インターン生と面談

本日のインターンシップでは、インターン生の先輩である社会人の方と面談が設定されました。この面談では、先輩が現在の会社を選ばれた理由、志望する企業の決め方、そしてワークライフバランスについて伺いました。



まず、先輩が現在の会社を選ばれた理由についてです。先輩は、自分のスキルや興味に合った仕事ができること、そして会社のビジョンや価値観が自分と一致していることが大きな決め手だったと話されました。また、会社の成長性や業界の将来性も重要な要素として挙げられました。

次に、志望する企業の決め方について伺いました。先輩は、まず自分のキャリアゴールを明確にし、それに合った企業をリストアップすることが大切だと強調されました。その上で、企業の文化や働き方、福利厚生などを調査し、自分に最適な企業を選ぶことが重要だとアドバイスをいただきました。

昭和女子大学3年生 西條 菜々美(第54期生)

◎吉田つとむのインターンシップは、参加者との個別対応が特徴です。
◎吉田つとむのインターンシップは、社会人になった先輩インターン生との直接面談が大好評です。
◎吉田つとむの元インターン生は、一般企業就職が最大で、次いで公務員。弁護士が3人。

インターン体験記⑨蛭田 咲菜

国民生活センター訪問見学

国民生活センターという国の独立行政法人の施設を訪問させていただきました。

国民生活センターとは、「消費者基本法」に基づき、国や全国の消費生活センター等と連携して消費者問題における中核的機関としての役割を果たしています。その具体的な役割としては、消費者対応などを行う「相談」、PIO-NETを用いて情報処理を行う「相談情報の収集・管理」、相談解決のためのテストや、商品に関する注意喚起に関するテストを行う「商品テスト」、資格認定や能力向上のための研修を行う「教育研修」、ホームページなどを利用した活動を行う「広報」、各地のセンターで解決できなかった事案についての手続等を行う「ADR」、消費者被害回復のための裁判を支援する「団体支援」の7つが挙げられます。その中で私たちは、「商品テスト」に関する施設の見学をさせていただきました。CTスキャンや走査型電子顕微鏡を用いた対象物の観察を行う施設や、商品の安全性試験を行う施設、そして実際に車両を走らせることができる屋外の場所など、様々な商品テストの現場を見ることができ、私たちの暮らしの安全がどのように守られているかを実感することができました。



昭和女子大学3年生 蛭田 咲菜(第54期)